

平成29年度岡山ESD推進協議会
岡山ESDプロジェクト活動支援助成金事業報告書

事業名 町内の課題克服と地域リーダー養成のための学習会(支え合う地域づくりを目指して)

団体名 津倉わいわいESD 担当者名 小楨章生

※活動の様子がわかる写真（データもお願いします）と説明を必ず添付してください。

1. 活動内容（日時、場所、参加対象者、人数、内容等）			
別紙(平成29年度 津倉わいわいESDの活動実績表)のとおり			
・4月16日	ESD総会 「28年度活動の総括、年間活動計画の承認」	10:00～11:30	津倉町集会所
・6月25日	講座「整理収納:ビジュー式について学ぶ」	10:00～11:30	津倉町集会所
・7月22日	「ラジオ塔」を利用したラジオ体操の開始(8月末まで)	6:30～6:45	上伊福西公園
・7月25日	懐かしい地域行事を復活させて、子供を含めた幅広い交流を図る……		
	「津倉稻荷堂の夏祭り」「寺子屋の開催」	13:00～16:00	津倉稻荷堂(妙應寺)
・8月18日	外部研修「認知症カフェ:美作大:小坂田教授」	8:00～16:00	津山市 カフェ
・8月23日	会員会議「夏祭りの総括およびESD活動のPR」	10:00～11:30	津倉町集会所
・10月29日	講座「NTT災害時対策:安否確認ツールの実践学習」	10:00～11:30	津倉町集会所
・11月26日	講座「きれいな街づくりについて学ぶ」	10:00～11:30	津倉町集会所
・12月24日	講座「料理教室(クリスマスケーキ作り)」	10:00～14:00	津倉町集会所
・12月25日	「独居老人を囲むクリスマスパーティ&忘年会」	18:00～20:00	津倉町集会所
・1月14日	会員会議「ふれあいカフェの見直し、新年度活動計画案」	10:00～11:30	津倉町集会所
・1月20日	講座「ラジオ塔の発見から見える戦争の実態」	10:00～11:30	津倉町集会所
・2月18日	講座「生活の中に笑いを:岡山大学落語研究会」	10:00～11:30	津倉町集会所
※ふれあいカフェ「毎週:月曜日(13:00～16:00)」常時15名程度の参加			
2. ESDの視点を取り入れたところ、ESDの視点で見直したところ			
<p>・町内会の会議に積極的に出席して、ESD活動のPR、特に高齢者向けのカフェの理解促進に努めた。昨年度からESD活動の一部を町内会事業に組み入れて参加の拡大を図った。(稲荷堂夏祭り、お月見茶会等)</p> <p>・高齢化の進む町内の実状を踏まえて、10年前後に到来する課題への準備学習を行った。現在の独居老人世帯は16%であるが、近い将来は20～30%超になると考えられる。継続して出来る「ふれあい交流」から共助の精神醸成に努めた。</p> <p>・町内で多数の人が参加可能で持続可能な行事を形成し、「支え合う地域づくり」の精神醸成に貢献できた。(ラジオ塔を活用したラジオ体操および野点茶会、稲荷堂夏祭り、独居老人を囲むクリスマスパーティ)</p> <p>・地域の人と交流の輪を広げたい意向を持つ町内の事業所(会社)や寺院と提携して、効果的な活動イベントを行なうことができた。</p> <p>また、生活の中に「笑い」を取り入れたいとNHK朝ドラにちなんで、岡大落語研究会に講演を依頼。子供から高齢者まで大変好評であったが、このような視点からもアプローチする意義は大きいと感じた。</p> <p>・毎週実施している「ふれあいカフェ」は、高齢者から「ここへ来るのが楽しみ!」という参加者が多い。メ</p>			

ニューに手芸(スノードーム、粘土細工、万華鏡など)を増やしたことで、見るだけ、しゃべるだけから手先を使うことの楽しみが現れている。また、自分の作ったものを孫にプレゼントする喜びもあるようだ。

3. 取組の成果（参加者にどのような意識や行動の教育上の成果があったか。感想など）

・成果の一番は、何といても「ふれあいカフェ(毎週1回開催)」の定着と充実である。

前年度の総括を踏まえて、参加者が増加すようメニュー見直しやPRを行った。その結果、「ここへ来るのが楽しみ。あれを又やりたい。」という主催者にとっては、嬉しくもあり遣り甲斐のある状況になってきている。この状況から親しさ、友情、共助の精神に繋がっていると感じている。

準備するESD会員は、大変であるが高齢者の方には大層喜んで頂ける結果となっているが、参加者が増加しない悩みもある。カフェの中で得た情報に基づいて電球交換、住宅の修理、物の移動、庭木伐採などお手伝いで喜ばれているが、中には遠慮(お礼をいくらする?)から頼めない人もある。今後、皆が遠慮なく依頼できるよう工夫をしていきたい。さらには、参加者に生き甲斐を感じてもらう為の工夫をして行く。(昨年の例:自分の得意な事を一冊の本(おばあさんの知恵袋)にまとめて発行するなど目に見える活動)

・講座に参加してくる顔ぶれは、テーマにより様々であるが我々が目指すところは「支え合う地域づくり」であり、その為に地域の現状と今後の推移を予測するなかで「今やらなければならないこと。今から準備しておかなければならないこと。」を実践することである。したがって、講座テーマについては、家庭において直ぐにも実践すること、意識の改革を図りこれから実践していくことに分けている。

参加者の中では「役に立つかも知れないことを学習している」という意識の人があるように感じる。

・講座の議題次第では若い人の参加も見られるので、生活に密着した「議題」を取り入れた活動が効果的。
・津倉町内で半世紀ぶりに復活させた「稲荷堂夏祭り」には、世代を超えた多くの人が参加し、お爺さん・お婆さん&子供達の構図から新しいふれあいと融和が生まれている。

・「お茶会」は、小学生や幼児が休日を利用して点前を修練し、親や祖父母に感謝を込めて振舞う。この「ふれあい茶会」は、例年微笑ましい光景のイベントになっている。今年も、ラジオ塔から流れる琴の音を聞きながら野点茶会を行なうことが出来た。しっかりと町内の老若男女が集う交流で地域づくりに貢献できたと思う。

・ラジオ塔の発見・活用から町内会イベントの位置づけが変わり、参加者意識に変化がみられる。(伝統行事を引継いで、老若男女の交流を促進する)

4. 今後の課題と展望

・現段階でも独居老人の世帯は16%程度であり、超高齢化が急速に進んでいる。その中において「支え合う地域づくり」は急務と考えている。他人事と置いていても10年後は一人住まいの世帯が30%程度となっているだろう。高齢者の生活環境は大きく変わってくる。この大きな問題は、町内会で取り組まなければならない課題であるが、取れあえず「ESDふれあいカフェ」を通じて歩むべき方向を探りたいと考えている。高齢者が継続して参加し、喜んでくれているところを見ると、その交流の中から高齢者の生活に必要な「支援活動」を見出していきたい。

・次世代の地域リーダー候補者はいるが、現役世代をESD活動に参加させる事は難しいとつくづく感じる。必要なことは若いという年齢ではなく、この「支え合う地域づくり」に参加できる家庭環境や健康状態である。今後は幅広く交流が図れる行事を企画して、地域リーダー養成を町内会と連携して行いたい。